

会 議 録

会議の名称及び会議の回	キャリア教育推進協議会 平成28年度 第2回
開催日時	平成29年2月22日(水) 午後4時00分～5時35分
開催場所	飯田市役所 A301・302会議室
出席委員氏名	代田昭久、各務 誠、小澤英文、田中真司、今村幸子、鈴木一美、酒井正也、須山政克、熊谷恒雄、三浦伸一、中井文彦、小林 弘
出席事務局職員	北澤生涯学習・スポーツ課長、近藤地育力向上係長、熊谷キャリア教育コーディネーター、松尾主査、高梨主査
会議の概要	以下のとおり

1 開会

ただいまから、キャリア教育推進協議会、これから始めさせていただきますのでお願いします。

2 あいさつ(会長)

皆さん、こんにちは。本日は第2回キャリア教育推進協議会にお集まりいただきありがとうございます。年2回で今日はまとめの会という形になりますが、是非忌憚の無いご意見をいただき有意義な時間になればと思っていますので、よろしく願いいたします。

この場を借りて、今年度、総括としては約1,600人の飯田市の生徒が職場体験を経験することが出来ました。これは学校だけでも市教委だけでも出来ない事業で、いろいろな企業さんいろいろな方々の協力を得てこういった活動が出来たことを、本当に感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。

また先々週、1月28日においては、キャリア教育の推進フォーラムという形で行い、委員の皆さんも何名かご出席いただきましたけれども、中学生含め320名が集まっているいろいろな意見を交わす場になりました。「自分の夢」や「働くこと」や「地域との関わり」そんなところまで意見交換出来たのは大変嬉しかったなと思いました。「これからの飯田市をつくっていくのは誰かではなくて自分たちなんだな」というような感想も聞かれてですね、本当にいい機会が出来て、これも皆様方の協力の積み重ねだと思いました。

一つ余談というか、私事なんですけど、昨日、飯田コアカレッジITの専門学校ですけど、行きて、30周年の記念講演をお願いされ、私が話をしてきました。35名くらいの生徒が居るんですが、関係者を含めて約100名くらいの講演会になったんですが、どのくらいなことを知っているかなと思ってですね、まず菱田春草の肖像画を出したんですね、これですぐわかる子どもはゼロでした、絵を見せて、菱田春草とわかり、次に田中芳男の肖像画を出しました。これを言うんですね、僕心配になったのは、ここに学校関係者も居ましたが結構わからなかったんですね。私、第3問を用意してですね、田中芳男のプロフィールの説明をしたんですね。博物館の父、植物園、動物園、日本の近代に大きく貢献したんだよという話をしながら「この二人に共通する所はなんでしょう」という質問を出したんですね、そしたら「髪型が似ていると思います」、昔の髪型で、思わず若者らしい発言だなと言ったんですが、私の意図としてはですね、この

二人に共通することまずは自然に対する畏敬ですよね。動物や植物に対する愛情を込めて、それをいかにどう表現したり残していこうかに、こういうことに本当に情熱を注いだ人であり、また海外にいろんな所まで行った人、ヨーロッパやアメリカやインドや、田中芳男さんというのは、ウィーンやパリでの博覧会での責任者として海外との交流、いい所をいっぱい取り込んだ、菱田春草というのは油絵の技法、油絵の素材までも入れたんだけど、新しいことをやろうとした海外の視点をすごく大事にしたのも共通点、三つ目の共通点としては、それでも尚且ぶれずに、日本画なら日本画、動物植物を大事にしながら、外からの知見も取り入れてイノベーションを起した新しい文化を創造した人なんだよというなんて話をさせて頂きましたが、ぼかんとして聞いていました。まだまだ、何が言いたいかという、我々がふるさとを愛せ、ふるさとに誇りをもってと言った時、余地があるなあと思いました。我々がやらなければいけないことがいっぱいあって、本当に飯田の良さとか、誇りに思う視点はいっぱいあるな、まだまだ伝えきれてないし、今回のご挨拶とさせて頂くならば、こういったキャリア教育もですね、ふるさとを知るまさに良い機会、更にこのふるさとがどんなふうな価値があるのか、グローバルな視点で考えることも今後必要なんじゃないかと思いました。来年度更にキャリア教育が飯田らしい形で発展することをまた皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。本日は、よろしくお願ひいたします。

3 協議

(1) 平成28年度キャリア教育の取り組みについて

- 「飯田型キャリア教育」の取り組みのまとめ
- 中学校職場体験学習の実施状況
 - ・業種毎の受入事業所の状況
 - ・職場体験学習に関するアンケートのまとめ
- 第11回キャリア教育推進フォーラムのまとめ
 - ・フリートーク記録
 - ・参加者アンケート

(事務局より説明) …資料1、資料2、資料3

(2) 平成29年度のキャリア教育の取り組みについて

- 次年度の「飯田型キャリア教育」について
- 各学校の来年度の中学校職場体験の予定について
 - ・受入れ照会票及びカレンダー（一般事業所、医療・介護・福祉事業所）

(事務局より説明) …資料4、資料5

(会長)

(3) の意見、情報交換に移りたいんですが、大きな柱としては、職場体験についての柱、もう一つがキャリア教育推進フォーラムについての柱、その他全般のキャリア教育の全体的な取り組みについて、この三つで話を進めたいと思います

まずは、今年度来年度の職場体験について、これについて意見や情報交換を行いたいと思いま

すがいかがでしょうか。結論を出す場所でもないのでざっくばらんに意見を言ってもらえれば嬉しいなと思います。

(K委員)

今、企業さんのほうを周らせて頂きますと、お声を聞くところでございまして、資料を見させて頂く中で、製造業分野が比較的少ないなと印象をもったところでございまして、将来的に、飯田の産業づくり、職場体験としての製造業、体験というのを非常に小さい頃から飯田の産業を知って頂くという意味で見て頂きたいという声もございまして、体験する製造業の業種なんかを増やして頂く中で、多くの方がそういった部分で体験して頂きたいという、そんな要望も出させて頂いているので、その点をご理解頂きたいと思います。

(会長)

今、飯田市の産業の中で製造の分野が少ないんじゃないか、少ないというか増やしていきたいというご意見を頂きました。これについていかがでしょうか。

(A委員)

鼎中学校、飯田市のPTAとして出ています。私の会社も製造業で、多摩川さんのお仕事を含めてやらさせて頂いております、その仲間内で話をした時に、私も青年会議所をやっていた関係もありまして、中学生の受け入れもやっておりました。やはりその企業への説明が足りないというか、何を手伝ってあげていいかわからない、仕事がだんだん複雑になってきているので、中学生に来てもらっても、あんまり教えてあげたりしておれないよと、受入側の意見として生の声として挙がっているのかなという所もあります、やはり学校側が、中学校のPTAをやっている中で、本当に中学校の先生達はいろいろなことを受け入れている中で、やはりその学校に地域の企業さんを周って下さいというのは正直厳しいのかなとは思うんですね。そういうので考えると、先ほどSYMS（シームス）さんと協力して受入先を増やしていくのは、すごくいいアイデアだと思って思うので、それ以外にも工業でいろいろな団体があります、逆に工業課さんと連携してもらって、どんな団体があるのっていうところから始まって、それこそ多摩川さんの協力会もありますし、三菱さんの関係とかもあると思いますし、効率的にその事業主さんにこんなことをして欲しいんだという説明をして頂ける場をもう少し増やしていくと、工業系の受入先も増える可能性はあるんじゃないかな、細かく周る事は実質大変だと思いますので、いろいろな会にちょっと5分10分でも時間取って頂いて周って、興味の有る所をそういう所を集中的にお願いをしていくのも一つの方法かなと思います、受入側の企業さんも受け入れたことがなければ、一回も受け入れたことが無いと、特に工業系は特に人と接するのが少ないので、どう対応していいかわからないという企業さんもいっぱいあるんですが、本当に力を持ってたりすごい技術がある会社もいっぱいありますので、そういうところが少しでも増えて、僕も中学生が一人でも工業系に興味を持ってくればといいな、というところで少し長くなりました。お願いごとです。

(会長)

経営の立場から、何をして対応したらいいのか、どう対応してよいかわからない。そういった説明を、効率的にもっと説明会を開くような形でいいんじゃないか、ご提案までも頂きましたが、それに関係していかがですか。

(B委員)

今、Aさんからもお話がありましたけれども、私も、今日は経営者協会という立場で出席をさせて頂いておりますが、多摩川精機という会社の方の立場もありましてですね、製造業が少ないということで、受入側のほうから言うと、Aさんがおっしゃられたように、依頼するという部分で、29年度のほうにもありますが、会社さんへ受け入れどうですかということで出すだけでは、なかなか受け入れたことが無い所は、あまり経験もないので、特段申し入れをしないと思います。受け入れている所は、今年も引き続きということも思いますけれど、特に工業系なんかは、前もお話ししましたがけれど、製品の品質だとか、安全化を考えると、なかなか子どもたちに、どういふことをやらせてもらうのか、どう経験してもらうのかちょっと分かりづらいところもありますので、先ほどいった団体もいろいろありますので、そういう所へ一度申し出といいますかお願いをしながら、受入をして頂きたいということと、子どもたちにもやはり医療、介護、福祉、たぶん子どもたちへどういう所で体験したいかをお聞きすると、殆どが医療、介護、福祉、小売・販売というところがイメージがやっぱりわくと思うので、やはり分かりづらいんですね、製造業は非常に幅が広いのです、物作りってなかなかぴんとこないところもありまして、そういう所も子どもたちに対してもやはり飯田市って、こういう製造業が多くありますよということも説明をして頂きながら、是非、働く事の意義ですとか、働く事に対する考え、地域性を含めてですねお話しして頂くなかで、企業への申し入れということでして頂ければ、ありがたいと思います、そうすればもう少し受入企業も幅が広がるんじゃないかと思っておりますので是非よろしく願いいたします。

(会長)

ありがとうございました。貴重な意見をありがとうございました。他にいかがでしょうか。

(C委員)

私は、建設業を営んでおりまして、この7月8月10月は忙しい時期ですね。建設業が、仕事が落ち着くのが春、4月5月6月っていう時期が、わりと仕事が薄い時期になりまして、そういった時期であれば、もっと多くの建設業の方が入って頂けるのではないかと思います。二つ目なんですけれども、もっと情報の発信をして頂けるといいのかなと思います。

(会長)

ありがとうございました。まだまだ届いていないと、飯田市がこういうことをやっていることを、わかりました。今、製造業だけでなく、建設業のほうからも、広がらない一つの時期の理由もあるということもありましたが、業界のばらつきという視点も頂いたかなと思います。そんな

視点でいかがでしょうか。

学校現場から、先生にお伺いしたいんですが、業界のぼらつきは学校現場としてはどのように捉えていらっしゃるのでしょうか。希望に合わないとか、マッチングの状況や、製造業に行きたいとの希望が多いとか。

(D委員)

今は、小学校の立場から言わせて頂きますと、やはり小学校5年生6年生で、丸山小は6年生で職場体験をやります。全部で約100名ほどやるんですけど、保護者の務めている所において、保護者を通じてということですので、いろいろな職業になるんですが、自分の親とか知っている範囲が少ないですので、今言われているように製造業のイメージが持てないということと、関わりがあまり無い、自分の身の周りかというと、教育関係や医療関係とか販売とか、子どもたちの目が向いていないというところはあると思います。そんなところは今のようにもっともっと呼びかけていただき、これから開発の余地もあるかと思っています。もう一つ私見ですが、Bさんが言われた、子どもたちのキャリア教育の視点とすれば、私も、素晴らしいなと思った体験があります。長野県の内陸でカメラの製造業が発達していて、それが何故臨海地域で行われなく、外から部品が入ってきていて、内陸まで持ってきて内陸で作って、そしてまた臨海に持って行って海外へ輸出しているっていうんですね。それが長野県で行われているわけで、それを調べていった小学生の子どもたちが、実は事業主の方の志を知るわけですね。辰野にいた時には、印刷会社、酒造業社、それとカメラの業者からその志を学びました。ここでやるから価値があるんだということを事業主の人が少しずつ教えてくれて、その熱意とか思いに子どもたちは、非常に敏感に反応して感動して、職種とかに関わりなく学ぶことは小学生にとって大きな影響があります、私は、そこを大事にしていきたいなと思っています。丸山小学校でも、水引とかりんごの農家とか、ほんと身近な所の、その事業の内容ということよりも、その方の思いとか、そういうものに触れるということも小学生のキャリア教育では大事にしている。そこが私は大事かな、中学生にとっても、なかなか選択のところで、自分の思うような所に体験に行けないことが多いんですけど、子どもの意図からすると、ここへやらされたととっちゃうと、その態度はなんだという感じになるわけですけど、そのの所がやはり業種でなくて事業主の方の思いとか熱意とか3Kとか5Kとかありますよね、本当に生き方に繋がるような所の、どんな業種でも通用する大事なものを、その来た子に熱意をもって伝えて頂くような、そんな事体験があれば、非常にいいのではないかと私は思っています。業種はあまり関係なければいいなあと思っています。

(会長)

ありがとうございました。業種にとらわれない共通した志とか、そういうものを伝えていく必要があるんじゃないかなというご意見を頂きました。他にいかがでしょうか。

(A委員)

今のお話で、受け入れ側としてですが、今言われたようなことをまとめてもらって、こういう

所は伝えて欲しいんだというのを、たとえば3日間であれば、ざっくりこんな感じでやって欲しいんだっていうものもあるだけでも、受入側の企業、特に製造業もやりやすくなるかなと思うんですよね、しゃべり慣れていない人もでも、だんだん話をしていくと、特に経営者の方も乗ってきて時間が長くなっていくこともある、何を話してやっていいかわからないとか、受入側の企業としては慣れていないと、例え袋詰めだけでも仕事は仕事なんですよ、それだって一つの仕事だよということがわかればいいですけど、うちではこういう技術があるからここはやらせたいが、ここはやらせるわけにはいかないから受入れられないという所も特に製造業ではあると思います。本当に飯田市として子どもたちに何を、こういうことだったら、別にどの企業でも出来ますよねということを書いてくれると、受入側ももっと増えるのかなと思いました。

(D委員)

印象に残っているのは、いくつかの事業主さんが、ここでやるから価値があるんだと、利害関係だけじゃなくて、まあ一つは雇用のことが多いかと思いますが、そういうことって子どもたちって本当に受け止めるんですね。それがふるさと学習にとっては、小さい子どもたちにとっては、ここに残るか残らないかそんなこと以上に、その子の一生を変えるような大事なものになると思っているので、今のようなベースになる共通の伝えて頂くことがあってもいいと思います。

(事務局)

フォーラムの中に、資料3フリートーク記録の2ページの竜峡中の男子生徒の発言を見て頂きたいのですが、こちらは、多摩川さんへ職場体験に行っているいろいろ書いてあるんですが、「直接仕事に関わることは出来ませんでした、皆さんが仕事をしている様子を見てものすごく真剣に細かい物を作ったり、大きな物を作ったり、休み時間などの時間をしっかりと守って、やるときはやる、休むときは休むなど時間のけじめをしっかりと守っていると思いました。」と書いてあります。

製造業のほうで、実際の製品に触れるということがなかなか難しいというようなことで、依頼が来ても実際に仕事をやって頂けないので、受入が出来ないよということが、やっぱり、Aさんが言って頂いたようにあるかと思いますが、その辺、仕事をさせないでということもおかしいんですが、実際に製品に触らなくても、働くという経験、大人との関わりという中で学んで頂くことがあるという事を、こちらとしても伝えていかないといけないのかなということで、子ども自体は、3日間行っているといろんなことを学びますので、直接製品を作らなくても学んだ事があるということで子どもたちは受け止めて頂いているので、そのへん事務局としても検討してまいりたいと思っております。

(A委員)

たとえば、製造業で余った部品とか不良になっちゃった製品もあると思うんですよ。前回やったのが、うち余った部品でそれを使っていかにも製品を作らせてるような感じでやってもらったのがあります、でも子どもたちは一生懸命やるし、うちも端材になって捨てるようなものでも、子どもたちが勉強してもらえんならいいかなということで、それをちょっと教え込むのは従業員

員には言いますけど、ほんと子どもって単純なことでも、小さければ小さいほど、楽しいと思うんですよ、例えば板を割るということだけでも、板を割ることでも仕事として割るということだけでも違ってくると思うんですよ、そういうところを、こんなことをさせてくれるだけでも、最悪、製品じゃなくてもいいんですよということがわかってれば、仕事を見せれる場って本当に増えるかと思しますので、すいません、付け足しです。

(会長)

時間もありますので、この職場体験に関してはまともに入れていきたいと思います。他にあれば。

(E委員)

女子短大へ別件でお邪魔した時に、こういう意見を頂いたのですが、資料2の2ページを見ますと、職場体験で福祉分野でやられている状況があるのですが、何か事前にその仕事の意義とか社会状況とかいう中で、少し座学が必要ではないかと、必要があれば女子短から先生を派遣しますよと、この地域高齢化率も進んでいますし、介護とか看護とかいう人材をどう繋いでいくかということも大事なので、事前の導入学習が必要ではないのかと言われましたので、参考にして頂くといいのかなと思います、今やっているのかもわかりませんが。

(事務局)

今やっております。中学校で希望があれば事前学習の講師の派遣を行っておりますので、女子短の方からもそういう意見があれば、女子短の先生に行って頂くという機会もとっていただきたいと思います。

(会長)

最後に私からも一言、長い視点の問題提起でいいですが、私も学校現場に入って、子どもたちに希望をとって職場体験させるという流れそのものに対してすごく違和感をもったんですね、というのは、想像やイメージをさせるだけで、知っている仕事に集中しちゃんですどうしても、この時期、特に中学校の時期は、働くことの視野を広げるという意味で、むしろ知らない職業に行つて辛い思いをしたほうが、価値があるんじゃないかなと思いました。私のいた中学校に提起したら、翌年度から先生方からあったのは、5日間は同じ所をやめましょうと、3日間を希望職種で、残りの2日間をランダムで戦略的に杉並区内でやりました、実は満足度は2日間の方が大きいんです。要するに想定外の所へ行ったので、子どもたちが面白いとか楽しい以上に、自分の想像を超えた瞬間に学習意欲が湧いてくるタイミングがあつて、そのためには製造業も戦略を練りました。どんなふうによつたら子どもたちのモチベーションがあがるか、杉並の紹介だけでは、そこまでつめてくれないので、蝶番の組織は無かつたので、先生方には負担を掛けてここまでやつてはいけないと校長としては思いましたが、でもやっぱり全然知らないところへ行くと、行くという覚悟が決まってしまうとやらされた感も無くなつてしまい、杉並の仕事をみんなで理解するんだと共有するんだと、意外に良かった。そんな視点もあるし、逆に言うと、これから仕事が、

子どもたちが10年先20年先、大きく激変して、野村総研の発表でいくと15年問題、半分仕事が入れ替わるというような状況の中からすると、自分の就きたい仕事もやっぱり視野を狭めないほうがいいのかなという視点があるかと思います。いろいろと検討してやって頂ければなあと思います。

(会長)

それでは二番目のテーマで、先月行われたキャリア教育推進フォーラム、子どもたちが一堂に会して、「働くこと」や「自分の夢」を語り合うこのフォーラムについてのご意見があれば頂ければと思います。

(F委員)

後半のフリートークの所だけですが、参加させて頂いたんですが、ジュニアリーダーの活躍ぶりを他の生徒がみて刺激を受けて、そして多くの学校の大勢の生徒が本当に進んで発言をしてはっきり自分の意見を言い合うそういう姿が、学校間の刺激をしあっていい活動だなということを感じました。私、公民館の立場で来ているんですが、地域の大人の人、まちづくり委員会や公民館の活動に主体的に取り組んでいる大人の人をお手本として、地域の大人と一緒に活動することで何か学んで欲しいとやっているわけですが、地域の関わり方、自分がどう地域と関わるかっていうテーマに入れて頂いて話し合いをして頂けたことは、本当に嬉しく思いました。またねらいのところに多面的な多角的な考え方を身につけて、出来れば、まとめの所で、働く事、地域の関わり方について、まとめみたいなお話があると、なお良かったかなと思いました。

(会長)

まとめの話は、誰がするイメージですか、大人ですか。

(F委員)

今までジュニアリーダーを知っていて、活動をしてきた経過を知っている大人、フリートークを聴いて。

(会長)

きゅっと、まとめることも必要ではないかという。

(F委員)

まとめるといって、多面的な多様な考え方についてのお話。中学生への基本的なそのような場面があるとなお良かったかなという気持ちはありました。

(会長)

出席して頂いて、そのような視点でご意見を頂くことは嬉しく思います。他にはいかがでしょうか。

(A委員)

先日、私もちょっと前半しか出れなかったんで、去年うちの娘が結いジュニアリーダーでお世話になりました、ありがとうございます。親としては、すごくいろいろ見たかったんですが、娘は恥ずかしいので来てくれるなどと言われて、今年は立場もあって娘もいなかったんで観させてもらったんですが、このフォーラムで、中学生が中学生に語り掛ける発表していくのは、すごくいいなあって思いました。もう一つは結いジュニアリーダーってどんなことを正直、娘がやってきたんだろうというのが見えたんですが、行くと同じ年の子たちと、いろいろやって宿題を出されて帰ってきて、その宿題が、働くことについてとか、この地域についてこの地域に対して私たちが何を出来るんだろうと宿題を持って帰ってきたんですけど、初めて娘とそういうような話をしました。僕もさっき言ったように青年会議所をやっている、この地域の子どもたちがとかいうのは考えているんですが、意外と人には言えても、自分の子どもということは無かったんですが、すごく考えてこの地域で私ができることを難しく考えていたんで、この地域はいいことだよと人に言うだけでも広がってくんだよ、この地域にいることだけではなくて、外へ一回出てこの地域の良さをわかって戻ってきてもいいんじゃないのっていうような話とか、いろいろ娘と去年出来たんですよね、今年実際に他の子たちの発表を聞いて、その発表の裏でも、いい意味で宿題が出て、考えるっていうことが出来て、それがこの地域のリーダーが一人でも二人でも増えていけばいいなあ、またやったことを、中学生が中学生に伝えていくことって、すごく新鮮さもあるだろうし、自分と同じ年の子がこんなに考えているのかを感じるのもすごく良いことだと思えましたので、今回もかなりの多くの子どもたちが来ていましたけれども、更にもっと聞けるといいかなというのと、ジュニアリーダーの数ももう少し増やせば、回を少し分けてでも、年に一クラスだけではなくて、いくつかがあってそれが集まって、波及性が出たりするのかなって思いました。本当に娘が実際に変わったので、すごい良い取り組みなので、もっと一人でも多くの子どもたちが体験できて、あのような場所で発表出来ればいいかなと思いました。

(会長)

貴重な意見をありがとうございます。是非フォーラムに参加された方がいらっしゃったら感想も含めてご発言いただければ大変嬉しいんですけども。

(G委員)

この会に4回ぐらい出させて頂いているんですけど、社会教育委員という立場で、参加してみると本当に今おっしゃったように、ジュニアリーダーの人達が勉強会をやって学んできたことをあの場で発表して、なんか嬉しいというか、すごくその発表をみてこちらが元気をもらって、ああこういう子たちが居るんだな、今回またフリートークの途中で抜けさせてもらったんですが、そうやって記録をみると座席にいた子どもたちが相当発言を沢山しているんですよね。今回、なんか去年と違ってそこがまたグリーンとレベルアップしたというかそういう感じがします。ですから今Aさんがおっしゃったように、もし出来たらね、ジュニアリーダーが人数ちょっと少ない12名でちょっと少ないので、あれが前期後期くらいになればもう少し増やしたら、それぞれの学

校へ戻ってまた良い影響を与えるんじゃないかなって感じがしますし、今年はどうして座席にあんなに中学生が居たんだろうと、そこらへんちょっとよく分からないんですが、今年は何かしかけがあったんでしょうか、学校の何かに呼びかけたとかどうですか。

(事務局)

昨年は、少なかったなあというご発言アンケートを頂きました。それもあって、会場を動かして、昨年並みの数だと、ばらばらだと寂しいので、各学校を周って、私が各学校を訪問させて頂きました。それが一点です、また先ほど話をしていましたが、ジュニアリーダーが来てよって言って、来る時に「〇〇さんに頼まれたから、俺、今日発言する」とフロアで始まる前に話していたと、ジュニアリーダーの人気というか仁徳もあったのかなと思っております。

(C委員)

初めて参加させてもらったんですけど、普通に驚きました。あれだけはっきりと中学生が自分の意見を発する、フロアのメンバーも、まったく立ち場によって言わされているのではなくて、生の中学生の声なんではないかなという所も驚きました。結いジュニアリーダーの中に、鼎中出身の子で、保育園の頃から知っている子がいて、もともとおとなしい子だったんですが、ジュニアリーダーになって、自らの言葉で発言してるところがすごいなと、逆に自分の娘はそういった所に関与してないというか、そういった所へ意識が向いていないんですね、もっともっと大きな会場で、もっと大きな人数で、ああいった本当の生の他校の声を聞くのは、すごくいいと思います。僕も静かにしていようと思ったんですけども、発言してさせていただきました。そういう印象でございます。

(会長)

火が付いてしまいましたね。

(A委員)

ジュニアリーダーを増やして欲しいとは思うのですがけれども、一つの枠はやっぱり今の12人位ってのは、逆にいいのかなと思うので。さっきも言ったように2グループが増えて、グループが増える前期後期でもあれですし、やっぱり人数が多くなってくると、自発性がおちちやうかなと思うので、あのジュニアリーダーの会はすごくいいなとは思ったので、すいません。付け足しです。

(H委員)

自分もこのフォーラム初めて参加しまして、フリートークのほうも参加させてもらったんですが、面白かったな、中学生の生の声といいますか、一人の中学生は働くってことは金がとにかく大事なんだということを言ったり、いやそうじゃないんだよという生徒がいたりとかしまして、そういう意見がたくさん出てくるのがすごいなというか、中学生の子たちこんなに真剣にいろい

ろ考えているんだなということが知ることができて良かったなあと思いました。参加した中学校というのが、事前にこう選ばれたのか、わかりませんが、全部の中学校が参加したわけではないですよ。

(事務局)

一応、全部に声をかけましたが、遠山中学校は距離がちょっと遠いということと、ちょっと先生方も都合があって、参加が出来なくて、代わりに校長先生が来て下さいました。

(H委員)

大変いい機会だと思うので、全部の中学校の生徒が参加出来て、こういった意見を交わすことが出来ればいいのかなということも思いました。

(会長)

ありがとうございました。他に何かございますか。

(F委員)

ああやって公開でやっていただくと、保護者にとっても子どもの成長した姿を生で見られる、西中のリーダーの子の保護者の方も来とって、本当に自分の子どものあうゆう姿がなかなか見れないので、成長を感じて。

(会長)

今、Fさんからその話を頂いたので、一つ私の方から、是非ご意見頂きたいのが、私もキャリア教育推進フォーラム素晴らしいぞというふうに聞いていたんで、参加してみると確かにこれはいいと。それだけ前評判も良く、ものいいのに、じゃあ何故保護者とかもっと企業の人達とか来れないのか、もっと来年度保護者とか企業とか、もっともっと多くの人達に、来てもらうためには、どんな手立てを打っていったらいいのかなと、去年の様子を聞くだけですけど、大勢集まれば今の子たちは、ギャラリーが多ければ燃える子どもたちも居るんだろうな、と思うんですよ。そうした時に、よりハードルは高くなるけれども、来て頂ければ、子どもたちは、もっともっと成長するなあと思いました。その中で何か逆に来れない理由を含めて、どんな形になれば多く集まるか、ちょっとご意見を頂ければと思うんです。

(E委員)

今、何人の方が言われた意見とまったく同じような感想を持ちました。私は、実はちょっと事前にアンケートA3を見る機会があったんで、それを見ますと、子どもたちも同学年の部活とか例えば郡音とかですねそういうものと違う中で、非常に前向きに捉えていまして、相当そういう感想を述べた子どもさんが大勢いました、この想いっていうのは市教委としてもしっかり受け止めて、そういう機会がキャリアフォーラムだけでなく、どうつくれるのか、要は多感な時ですから、いろいろの経験やいろいろな違う意見を聞くっていうことが自分の成長に繋がりますので、

そういうことが、どう市教委がやっていけるのかなっていうふうに思いました。従って、全体に大勢の方についていう中の一つに今2年生が対象ですけど、2年の子どもたちが極力多く出ることを呼びかける必要があるかなと思いました。

(会長)

ありがとうございました。

(C委員)

まずこれだけのいいものを行っていることを知らないです。ほぼ知らないんです、来る来ないの以前にみんなが知らないんですね。僕も今、青年会議所という立場を頂いているので、でなかったら知る機会すら与えられていないです、何かもっと、早い段階からこの生の声を何らかの形にして発信して頂きたいです、どういった形で発信されたものに対しても、簡単にそこに見にいけない何か工夫を作ってもらいたい、あらかじめ予定が分かっているものであればですけど、結構近々でお知らせがあったとき、予定が合わないんです。発信を早目に、また発信の仕方もっと広い意味で、学校側だけでなく、企業さんにも、例えば職場体験に協力されている企業の皆さんにも発信方法もしっかり、もっと増やしたい、もっと多くの人に知ってもらいたい。

(A委員)

今、C委員長が言ったとおりのところがあって、この件だけではなくて、この地域というかざっくり言うと飯田市は、アピール力が弱いところがあると思います。どう人が興味を持つか、どこに興味を持ってもらいたいのかという所を、例えば中学生に絞った形のアピールでもいいと思いますし、もっと幅広くなってもっと幅広くの人達に、どうやったらここに興味を持ってもらえるか、この地域の子どもたちがこんなことを考えているということを開きに来てくれ、というのをどうアピールしていくのかだと思います、細かく回ってもしょうがないし、今すごく情報化社会なので情報が有り過ぎて、例えば地域へ行って飯田市さんの話しをしても、飯田市なんて全然何もしてくれないという話が良くあります、でもこういう会議に来て聞くとこんなに一生懸命飯田市ってやってくれているんだというのが分かるんですが、じゃあ僕達だけが回りの人に言っても、言わないよりはましだけれど、どうしても広がらないという中で、これだけにこだわらずいろいろな市がやっている行政の内容も踏まえて、もうちょっと上手く広報できる仕組みが市として、例えばケーブルテレビさんともっと協力してとか、いいだFMさんと協力してとか、新聞だとかいろいろなメディアあると思うんですね、例えばホームページも面白ければ、やっている内容も例えば動画で、今いろいろな著作権の問題はあるかも知れませんが、動画で中学生がこんなことをやりましたよ、中学生がこんな発表をしたんですよ、SNSとか色々なやり方はあると思うんです。だけど文書だけでパーンとやったって誰も読まないし、企業側もあなたの企業の映像が出るかも知れませんが、あなたの中学校体験してくれたのが出るかも知れませんが、興味を持ってくれるかも知れませんが、この案内が来ただけでは正直行かないと思います。っていうところを、熱い中学生が話をしているこの地域にもこんな中学生が居るんだよと分かってれば、見に行きたいという人は増えると思いますし、そこらへんのアピールをもうちょっと上手く、

これだけにこだわらずに市全体でもうちょっと出来る方法をして頂けたらいいかなと思います。

(課長)

いろいろ貴重なご意見を頂きましたので参考にさせて頂いて、情報発信の方法でいろいろ課題があるということなんで、そういった所は、まだまだ工夫する部分はあると思いますので、また、今日頂いた意見を吸収しながらやっていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

(会長)

15分という終了時間がちょっと過ぎてしまったんですが、三つ目の柱として、今の二つの柱、職場体験とフォーラム以外の部分で、何かご意見あれば、いかがでしょうか。

(I委員)

職業安定協会という立場で出させて頂いておりますが、29年度の新しい方針として先ほどお話を伺ったんですけれども、今後は高校も力を入れて行きましょうという方向性を出して頂いたんですが、是非そういう形で進めて頂きたいと思うんですけど、何故かと申しますと、我々企業といたしましては、こういう活動を今、特に中学生にやって頂いている、高校まで行くとこれが少しトーンダウンしてしまう、またその先の大学に行ってしまうと全然というような、確かに小さい頃に培ったものはあるとは思いますが、結果として企業として望むのは、やはり大学まで行ってもいいんですけど、戻って来て頂いて、この地で働く、この地で働きながら、この地域の中の皆さんにとけ込んで、住んで働いてもらいたいというのが一番だと思うので、そこら辺を少し上の方に広めるという発想を是非お願いしたいなど、数字的なことを言ってしまうと、例えば就職年齢が何パーセントだとかという、そういうような指標も是非出して頂きながら、目標値として何かあればいいのかなと、そんな感想をもちました。よろしくお願いいたします。

(課長)

今、職業安定協会のほうからもご意見を頂きましたが、数字的なものについては、産業経済部のほうでいろいろな数字を把握しておりますので、そういった所と連携しながら、やっぱり年代を基に、取り組みというのは、いろいろと切れ目なくやっていくことが大事だと認識しておりますので、連携しながら、産業経済部のほうでは、高校の向けの取り組み企業訪問も含めてやっておりますので、情報を頂きながらやっていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

(A委員)

ここで言うのかあれですが、今、人を採るのが大変になってきています。飯田市が求人倍率も、1.6と聞いている中で、企業側として募集をかけても、なかなか人が集まらないというのが今私達もすごく困ってます。せっかくお仕事があっても、人が来て頂けないっていう中に、もちろん企業側のアピールも足りないという所もあるとは思いますが、先ほど言ったように若いうちに、工業系をもっとアピールさせてもらったりとか、子どもたちに聞くとどんな職業があるかやっぱり分からない、もちろん興味があって都会に出て行って、都会で頑張るのも一つだとは思いますが

すが、この地域に戻ってみると、あんな事もあるよね、こんな事もあるよねと、いうのが一番大事だと思います。そのためにやってくれると思うんですが、だからこそ飯田市さんだけにお任せするわけではなく、企業側ともっと上手く連携をしながら、せっかくなにかいいことをやっているのがうんとタッグを組めたらいいなって思います。そういう意味で先ほど言ったように職場体験のやつを各個で周るのではなくて、いろいろな団体を上手く通じてまわしていくとか、とにかく一社でも多く、工業系だけでなく、いろいろな会社があって、要はみんな求人困っているから、1.6という数字になっていると思うんで、今からそれをやらないと、5年後10年後に少しでも改善されればというところで、是非とも市だけが頑張るのではなくて、企業側とも上手くタッグを組んでやっていけるような一つになればありがたいなと思いました。

(C委員)

私どもの建設業界も、本当に人手不足でありまして、若い子が来れない来ない、そういった体験もお仕事が少ないという中で、製造業さんと同じように、建設業の皆さんもすごく多いんですよ、今その人達がどうしているかという、どうも海外から人を採っちゃっているんですね。安い人材を、海外研修生を受け入れて、そうすると今度実際子どもたちが働きたいといった時に、海外から採っちゃって高い人材を採る余裕が無いというようなこともおきる段階に来ているんですね、本当に若い子たちが、地元の企業に就職するために何か年という目標を掲げた上でその中で、策略でいろんなことをやっていかないと、もう間に合わない時期だと思うんですよ。うちの会社も若い子たちが居るんですが、それ以上に人材が足りないんで、海外の受け入れを考えているんですよ。そういったところは目前として迫っているんでそこは本当にお願ひしたいのと、僕も今この青年会議所という立場でものを言っているのではなくて、一企業人として、一経営陣として言わせてもらっていますけど、僕自身がですね、まず高校へ行きながら今の仕事先へアルバイトに行ったんですね、アルバイトに行っていて企業の社長から熱烈なここに残って仕事してくれと熱烈なことがあって、大学へ行くのをやめて今の会社に勤めているんですね。企業を経営する側と子どもが接点を持てるような機会を何かしら作って頂きたい、そういうものを作るのであれば、例えば青年会議所の中で何かしらご協力出来るでしょうし、今出たSYMSのほうからもタイアップしたイベントを組もうよセミナー組もうよということも出来ると思いますので、もっとじゃあ実際にどういう行動を起こすのか明確に発信してもらいたいと思います。

(D委員)

時間きているところすいません。御礼というか、小中の学校の立場で、私しか居ませんので、飯田市外のことで考えると企業の方々の所へ各学校で周ってお願いして、探してそして折衝して、それもそれぞれの担当がやっているというような状況が一般です。ところが飯田市は、このようなプラットフォームが出来て、このような連携を組んで、機会がありますし、そして企業さんもこのように出てきて頂いて、そして飯田市のほうでプラットフォームを運営して頂いて、先生方はそれをあたりまえのように、考えている所が多いと思います。担当が毎年毎年殆ど変わりますので、それをあたりまえと思っている所があります、そこは毎年肝に銘じて、ありがたいというか通常ではないということ、しっかり私たちが認識していきたいと思っています。ですので、今のA

委員さんC委員さんが言われたような関わりの所の飯田市としての更にこう子どもと、C委員さん言われた企業と子どもの接点という所が、非常に大事だと思います、働く人をこの地域に残すことも、飯田市がねらっている所でもありますので、そんなところで本当にありがたいということと是非今後も学校の方も襟を正してこのありがたさを確認していきたいと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。ありがとうございます。

(会長)

他にいかがでしょうか。

(F委員)

29年度の取り組みの所でLG飯田教育を中核に据えてと出てきているんですが、27年度全市の小中学校で指導計画が出来て、28年度はそれを実践してどうだということ所を始めたところで、もう今度は、29年度にはLG飯田教育を中核に据えてまた年間指導計画を作成、ちょっと矢継ぎ早に次から次へと出てきて、29年度はまちづくりも公民館も任期が切れて変わる年になるので、28年度末にコミュニティスクールの運営協議会が出来るとはありますが、また29年度になると人が変わるので、もう一度任命し直して、協議会の組織を作ってじゃあ実際にどういう活動をしていくんだ、実際の取り組みが始まる年だと思うんですが、その年にまた新しいLG飯田教育が入ってくるというのは、なかなか小中学校大変かなという気がしながら見せて頂きましたが。

(会長)

その点、事務局いかがですか。

(事務局)

ありがとうございます。ちょっと私の説明も不足していましたが、実は飯田市のキャリア教育、飯田型そのものが、地域の人や物を使って「地育力」でやっていこうというところでもありますので、コミュニティスクールにも通じますし、キャリア教育の指導計画に充分入っているところです。だから、それはそのまま行って、そこに加える何を加えるかという、今までは地域の良さはこうだぞとっていた所に、実はその良さというのは、こんなふうに世界に繋がっている部分もあるんだよと、その部分だけを加えるというふうに考えております。まったく新しいものをつくるんじゃなくて、今あるもので同じ活動をするんだけど、その視点も加えてやっていきましょうね、とそんな思いでおりますので、新しいものをまた作るのではなくて、考えているところでもあります。

(J委員)

F委員それこそもう先が見えて、29年度新しいものをまた構築してやらなければならないかと、やる気に満ちた発言を頂きましてありがたいんですけど。校長会・教頭会から始まって、今、学校としては、29年度、もし新しい世界からみた視点だとか、グローバルな視点を加えたらど

うなるという所を少しやってみましょうという所で動き出すところですので、28校全部それでまったく新しいものを作りますよというところで動いてきているわけではありません。少し加えてみて、今のところからどんなことが出来るかというところで動き出すところですので、またその時には、お知恵をお借りしたいと思えますけど、よろしく願いいたします。

(F委員)

中核に据えてとあると、非常に重く受け止めてしまう。わかりました。

(会長)

たしかに、表現として、これ作成を進めるほうに掛かるんですよ言葉として、中核に据えたキャリア教育の計画の作成を進めて行こうというのが29年度なので、中核に据えるというのは我々としてはまだ4年とか10年先だろうなと思ったものを、少しずつそういった考え方を進めていきましょう、中核に据えたがもうちょっと表現の方法を、初めて読んだ人には、課題があるなど、その部分は検討したいなとちょっと私自身も思いますのでお願いします。

(A委員)

今のLGのところで、LGで地域は分かりますが、グローバルは地球ですか、地球という表現ですかね、というのは単純にもっと世界的にという意味合いだと思うのですが、それが地球という表現で子どもたちにこれから進めていくのかなと単純に思ったのが一点と、グローバルな視点というのはすごくこれから大事になってくると思います。リニアが通って、小さな世界都市という話も出ておりますが、この地域でよくここだけでまとまりやすい性質があるので、他地域を見たりとか、少しもうちょっと競争力のある子どもたちに育て欲しいと前に代田さんにもお話をさせてもらったという思いもあるので、すごいグローバル化な視点を入れていく、グローバルにしるではなく、視点を入れていくという考え方はすごくいいなとは思いましたので、でもグローバルイコール地球かなとはちょっと思いました。

(会長)

それに関しては事務局からは。

(事務局)

実は、このLG(地域・地球)飯田教育っていうのは、飯田市の教育委員会が作りだした造語です。平成29年度から12年間リニア開通までに、どういう子どもたちを育ていきたいかといった時に、これまでも「ふるさと学習」や「体験学習」、一体的な「キャリア教育」を重視してきましたけれど、これからは更に物理的に時間的距離が大都会と、また世界と繋がってくるというなかで、子どもたちに新しい感覚で生き抜いていって欲しいという思いをこの言葉に込めさせて頂きました。従って地域と地球、ローカルとグローバルっていう意味で、これがまったく正確に言葉を表わしているかどうかっていうのは、少し意見もあるところだと思います。

(A委員)

単純にグローバルが地球かっていうだけで、普通は世界的とかそういう意味合いだと思うんで。

(事務局)

地域というものを上手く表すために、地球っていう部分をもってきています、グローバルはある種、球体という意味もありますけど、世界的とか国際的とか、もう一つ出たのはインターナショナルという言葉もありますが、こういうことでまとめました。これから12年の中で、子どもたちにどういう教育をしていったら、そういう力を付けてもらえるかってことを市教としても命題として取り組んでいきたいと思います。ちょっと具体的なものは、今見て頂いた資料の3ページの所にイメージとして入っていますので、例えば水引というのを「ふるさと学習」や「体験学習」などで学んだ時に、じゃあそれを世界的な少し地球的な規模で見た時に、どんな視点を学習の目的に入れたらいいのか、例示を入れてあります。そういう観点で取り組みたいなということです。

(A委員)

取り組み自体は、僕も大賛成なので、グローバルイコール、小さい子どもが地球と覚えられるのは違うんじゃないのっていう、地域と世界的とか、グローバルという言葉を使うんなら、言葉の意味をある程度、球体という意味もあるんだよと言っても、この書き方をして子どもたちも、逆に意味がわからずに、カタカナ言葉に弱い人達が見た時にグローバルって世界じゃなくて地球かってという覚え方をされるのはどうかなという意味です。

(会長)

私の方からも、繰り返しになってしまうんですが、ふるさと学習とユニバーサルデザインをするようなグローバル学習ってあるんですね。でも我々がやっているのはもうちょっと踏み込んでやりたいというので造語をしたので、要はみそですね、ローカル・グローバルと書いていない、「L」、「G」、「飯田」、というふうに造語として、それは言いやすいように地域・地球・飯田というふうな意味合いがあるので、最初は造語ですのではやらないかも知れませんが、やはり信念をもってやっていけば出来るんじゃないかという意味合いもあってですね飯田で造語をしましたので、だんだんご理解を深めていきたいところでもあります。

(会長)

他にはいかがでしょうか。

(G委員)

職場体験の時に、企業へ行く子どもたちが、企業へ行ってどうするかということがあまり伝わってなくて、例えば多摩川さんであれば、子どもたちが行った時にどういう研修がきちっと出来るのかということを経理あたりで、もうちょっと大手の所へ行ってそういうモデルケースを

作ってやるとか、そういう資料を作っておけば、行ってまたそこでいろいろ分からない所とか、行く前から事前に勉強も出来ますし、なんかそういう資料が出来ないのかなって思いました。

(会長)

情報公開について、ずっと出ているので、私が発言してしまうといけないかもしれませんが、こういう場をもって蝶番をしている自治体ってすごい少ないんですよ、となると今の発言でいうとこれをだいたい学校の先生がやるんですね、学校がやっている、こうやったらいいのかというのを各学校でやっているんですね他の自治体は、だとするともうちょっと逆にいうとD委員おっしゃるように、もうちょっと学校と事務局側も少し打ち合わせて、この三者の連絡というのが密に取れれば、次のステージに上がるかなと思いますので、今後のこの会の課題かなと思います。

(A委員)

企業側でいうと、結構もっと動画を使ってもらいたいような気がするんですよ。単独の子どもの写っている写真だとか、何枚かでこんなことをして下さいと言われるよりは、他の企業ではこんな体験させてますよとか、こんな話をしましたとか、社長さんにこんな話をしてもらいました。もうちょっとある程度動きがあってイメージの湧きやすいものがあると、受入る側も、ああこんなことをやればいいのか、難しいことではなくて、逆にもっと簡単なことでいいと思うんですけど、イメージが湧くようなもの、今は携帯だって動画を撮れる時代なんで、タブレットで見せてくれるとか、ホームページであげれるものだったらあげてくとか、もっと動きのあるもののほうが今の時代は効果的かなと思いました。

(A委員)

たとえば青年会議所でも、わんぱく相撲を流すと視聴率がすごくあるらしいんですよ。企業を訪問して実体験したやつを、企業も本人もOKだって言えば、そういう映像を流していけば、他の企業ではこんなことをやっているんだとか、いうのを繰り返しやってるうちに、見てくれる人って増えてくって思うんですよ。たとえばホームページでもいいでしょうし、お金を掛けずに知恵を出せばやれる方法ってもっともっとあるんじゃないかなと思います。特に動きのあるものは見るし、動きの無いもの字だけのものは見ないよという所がポイントかなと思います。

(C委員)

フェイスブックとかで動画でシェア可能なものをちょっと流せばいくらかでも拡散しますよ、僕らも青年会議所でもわんぱく相撲、お仕事キッズタウンやらせてもらっていますが、今年は、去年の職業体験の短い動画を全部あげていこうと思っています。とにかくシェアし合える人が増えてくれば、勝手に拡散しますよ。僕も親としてまったく知らないですね、子どもがどこで職場体験をして何をしてきたか、学校さんの考え方も事業課の一生懸命言っていることも協議されていることも知らない、もっと言っちゃうとこの会を動画で流して頂きたいくらいですよ。それが本当に皆さんに伝わった時に、一生懸命なんだ、じゃあなんか出来ないかと、それが想いの部分だと思うんですよ。

(会長)

ありがとうございました。時間もないのでこのへんで閉じさせて頂きたいと思いますがよろしいでしょうか。本当に最後の10分位の内容が、そのまま来年できるので、やらないとこの会の意味がないかと思っています。実現できるんじゃないかなと思いますので、非常に貴重なご意見を沢山頂いてありがとうございました。引き続き、本当に子どもたちのために力を合わせて出来る事があるなと認識したところです。今日は本当に御議論ありがとうございました。

(課長)

貴重な意見ありがとうございました。また来年度の事業に参考させて頂きたいと思います。それでは第2回キャリア教育推進協議会を終了させて頂きます。皆さんありがとうございました。